

国土形成計画のモニタリングの あり方に関する論点整理

資料目次

1. 国土形成計画のモニタリングのあり方に関する論点
2. 今後の検討方針

第一回研究会では、「国土形成計画のモニタリング」と「国土をめぐる様々な情報のモニタリング」の2つの視点から意見が挙げられた。

国土形成計画のモニタリング

1) 国土形成計画のマネジメントサイクル

戦略的な目標などの目的に照らして評価するのがいい。
民間でモニタリングは目標達成するためのプロセスを管理するもの。現在の国土モニタリングのサイトは定点観測に近い。
評価への一般人の参画は、時系列を考える必要がある。
国土形成計画に目標値が書かれているのを見たことがない。
アウトプットだけでなく、予算がどのくらい使われたかなどインプット情報も必要。

指標自体のわかりやすさ

2) モニタリング指標のあり方

「モニタリング実施手順・実施体制」については構築された部分もあるので、指標のあり方(国民生活の改善に及ぼす効果や満足度が適切に把握できるようなモニタリング指標)について時間をかけて検討すべき。
これまでのモニタリングは施策の分析ツールにとどまっており、今回の研究会でどこまでをターゲットとするか。

国土をめぐる様々な情報のモニタリング

3) 基礎的情報の更なる収集・分析

基礎インフラとして、統計をしっかり作ってることが重要。
平成22年に予定される経済センサスとの整合などにも配慮が必要。
最新のデータを用いて早めに更新できるとよい。
メニューをどう作るかが問題で、場合によっては今までにないデータを作る必要もある。
例・観光に関して海外から入ってきた外国人の動きが分かるデータ等。

多様な主体の参画を促進する
わかりやすいモニタリング

表現によるわかりやすさ、利用しやすさ

4) 統計地図による表現

地図との重ねあわせで、地理的分布が分かることが重要。
量ではなく質についての議論が重要。土地利用の変化等市町村合併に伴い、データの見せ方とともに注釈が必要。

5) 国民との情報の共有・プライバシー

原データを公開していくことが重要。
利用者が使い勝手のいいものを作ることが大事。
地価データの、公開は慎重にすべき。
データ公開することによって、反作用を及ぼすこともある。
プライバシー保護の面から公開する内容は議論が必要。

モニタリングシステムの概念設計を行ない、その基本方針に基づき「国土形成計画のモニタリング」「国土をめぐる様々な情報のモニタリング」の検討を進める。

モニタリングシステムの概念設計

国土形成計画のモニタリング

1) 国土形成計画の
マネジメントサイクル

2) モニタリング指標の
あり方

国土形成計画の目標・手段体系に
準拠したモニタリングの検討

5つの戦略目標のモニタリング指標の検討

- ・アウトカム指標の抽出
- ・インプット - アウトプット - アウトカムの関連性分析
(プロセス分析)
- ・現行モニタリング項目の活用方法検討

国土をめぐる様々な情報のモニタリング

3) 基礎的情報
の更なる収集・
分析

4) 統計地図
による表現

5) 国民との
情報の共有・
プライバシー

既存統計情報、地理情報システム
との連携方法の検討

現行モニタリングと地図
情報システムの活用

- ・地図情報システム等の既
存システムとの効率的な連
携方針の検討
- ・現行モニタリング項目の確
認と追加指標の検討

わかりやすさ、利用し
やすさの検討

- ・統計地図のわかりやす
い表現方法、利用しやす
い原データとプライバシー
の保護について検討
(次回以降検討)